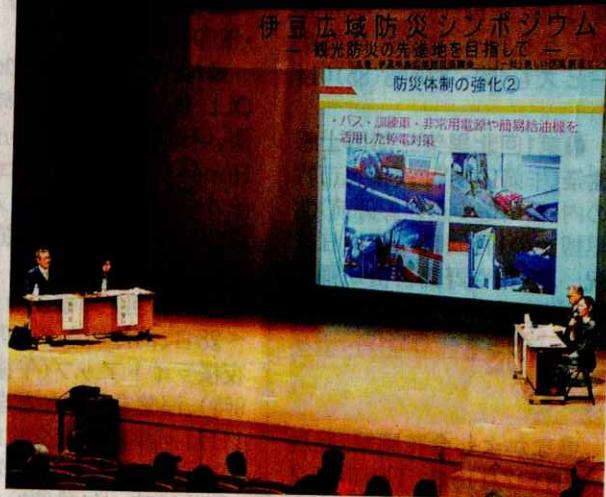


伊豆半島広域防災協議会

南海トラフ地震L2想定 初シンポで対応計画示す

伊豆半島13市町で大地震などに備えた広域防災を検討する「伊豆半島広域防災協議会」（会長・菊地豊伊豆市長）は25日、伊豆の国市四日町の韭山時代劇場大ホールで「伊豆半島防災シンポジウム」を開催した。菊地会長が「広域防災計画」の骨子（たまご）を発表した他、有識者によるトークセッション、岩手県山田町の元防災担当・白土靖行さんの講演会などを行い、大規模災害への広域対応について考えた。

（伊豆日日新聞 佐々木誠）



菊地会長は2035年夏の昼間に、（県第4次地震被害想定に基づく）南海トラフ地震の最大クラス（L2）が発生したとする想定・対応などの計画案を示した。鉄道網の状況想定では、伊豆急行と伊豆箱根鉄道は全面運行停止。東海道線、新幹線は三島駅以東について減速・減便で運行されると予想した。

住民への広域支援について「陸・空・海路による補給支援」「ホテル等宿泊施設の広域活用」「海岸部住民を内陸部の仮設住宅に」などとした。観光客帰宅支援に関しては「借り上げバス等陸上輸送」「新幹線等鉄道の乗車」「高速道路等の

トーキングセッションでは菊地会長を進行役に、都市計画に詳しい秋田典子・千葉大教授、西伊豆町災害ボランティアコーディネーター連絡会の仲田慶枝代表、東海バス専務の朝倉亮介さんが意見交換。観光客の避難については「事前（災害前に各市町の役割分担をしっかりと決めることが重要）、住民対策では、に各市町の役割分担を

も強めるべきだ」といふた意見が出された。東日本大震災当時に経験を踏まえ自分の命は自分で守る」と「津波でんでんこ」の心構えを改めて強調した。前日には伊豆の国、伊豆両市と函南町職員を対象にした防災研修会も開かれ、白土さんが講話した。

も強めるべきだ」といふた意見が出された。東日本大震災当時に経験を踏まえ自分の命は自分で守る」と「津波でんでんこ」の心構えを改めて強調した。前日には伊豆の国、伊豆両市と函南町職員を対象にした防災研修会も開かれ、白土さんが講話した。